

第1回 学識懇談会議事要旨

平成18年11月13日

中国地方整備局 鳥取河川国道事務所

第 1 回 千代川の今後を考える学識懇談会 議事要旨

日時：平成 18 年 8 月 7 日 13:30～15:30

場所：白兔会館 2 階 飛翔東の間

要旨：下表のとおり

表 - 1 意見とその対応(その 1)

意見及び質問	事務局の回答及び対応
<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明のあった 5 洪水の確率規模はどれくらいですか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大正 7 年の洪水が 100 分の 1 程度、昭和 54 年の洪水が 40 分の 1 程度です。その他の洪水については、次回報告します。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 樹木による流下能力の低下の影響については、どのような方法で検討しているのか ・ 今後、河川域の樹木の考え方について整理してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 樹木(高木)については死水域として計算しています。また、ヨシなどの倒伏する草本類については粗度係数により評価しています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 洪水を速やかに流すのも必要だが、生物の生息地という面から治水対策と対立する部分がある。その両方がうまくいくように、この懇談会で検討していければいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 魚のすみやすい川など、動植物が生息・生育出来るような河道断面を考えていきます。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生物にとっては岸辺(水辺)が重要である。生物の重要度に応じて水辺の整備を考えてもらいたい。 	-
<ul style="list-style-type: none"> ・ 河川管理者は全ての樹木を切っはいけないが、過繁茂であってもいけない。適切な管理が重要である。 	-
<ul style="list-style-type: none"> ・ 千代川の河口部で、近くの住民の方から、樹木の伐採要望があり、鳥への影響について、鳥の立場で意見は言いましたが、非常に不可解に思ったのは、伐採する場所から河口まで何もなく、洪水時に水面が上昇するなどの影響があるとは思えない場所だった。 	-
<ul style="list-style-type: none"> ・ 河川の中上流にはツルヨシがびっしりと繁茂している。また、野坂川ではツルヨシがはびこり水がどこを流れているのか判らない状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 樹木の伐採については要望が多いが、ツルヨシ(中洲)の管理まではなかなか手が回らないのが実情です。
<ul style="list-style-type: none"> ・ アシが非常に繁茂しているが、以前は肥料等に利用し持続的管理が行われてきた。先ほどの話は消極的管理であるが、場合によっては岸辺の保全に係ることでもあるので、積極的に保全することも必要ではないか。 	-
<ul style="list-style-type: none"> ・ 河川管理については、効率的にお金を使う方法を考える必要がある。例えばゴミ清掃などは結構実施している。 	-

表 - 1 意見とその対応(その 2)

意見及び質問	事務局の回答及び対応
<ul style="list-style-type: none"> ・ レッドデータブックの貴重種を色分けしてもらいたい。 ・ 鳥取砂丘に関し、千代川の役割についてコメントしてもらいたい。 ・ アユの産卵場をとりあげているが、アユの産卵場が多様な生態系と言えるのか、多様な生態系に関し表現を工夫してもらいたい。 ・ 中流域の説明について、上下流の生物・・・とあるが判りづらいので、単に「中流域は生物相が豊か」という記載にしてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 御指摘を踏まえ修正します。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 主な水利用の説明図は、袋川流域の農地は同じ面積を灌漑するのに約 2.3 倍の水を使っているとの誤解を招きかねないので、記述の仕方を工夫していただきたい。例えば、農業用水については、取水量を農地面積で割った値（農地面積当たり取水量）も示すなどしてはどうでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農地面積を調査の上、次回結果を報告します。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 千代川計画洪水流量に配分図に「上流の洪水調節施設により 600m³/s を調節」とあるが、これは既設の佐治川ダムと、建設中の殿ダムによる調節機能でしょうか。各ダムの調節機能の内訳を示していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行徳地点で殿ダムが 200 m³/s、その他洪水調節施設で 400 m³/s 調節する予定です。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球温暖化の影響は流量の設定に反映されているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去のデータに基づき流量を設定しており、温暖化の影響などは考慮されていません。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 正常流量を設定する際に、代表魚種はアユとサクラマスとなっているが、それ以外の魚類は対象にしていないのか ・ 産卵期や遡上期で流量は異なると考えるが、そのあたりは考慮されているのか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業関係者や学識者の意見を踏まえ代表魚種としてウグイやヨシノボリ類等についても検討しています。 ・ 遡上期や産卵期等期別に設定しています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 浸水の想定区域について、新しい道路で場所によっては、盛り土の部分と高架橋の部分とがありますが、例えば盛り土の部分と高架橋の部分に、水が流れ込んできた場合、浸水区域というのは変わるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路もそのことを踏まえて地元説明をしながら工事を行っていると思いますが、そういうご意見も踏まえて、今後も進めていきたいと思えます。